第1回大磯町立中学校給食に関する懇話会会議録

[日 時] 平成24年10月1日(月)午後3時～午後4時45分

[場 所] 大磯町役場4階第一会議室

[出席者] 大磯町立中学校給食に関する懇話会会員 14名
大磯町教育委員会教育長、教育部長、同学校教育課長、同主幹兼副課長、同副主幹兼指導主事、同教育総務係長

[傍聴者] 5名

[議事概要]

1. 大磯町立中学校給食に関する懇話会設置要綱について

本設置要綱により、懇話会の趣旨、所掌事項、懇話会の構成等を事務局から説明をする。

2. 会長及び副会長の選任について

会長及び副会長の選任については、委員の互選により、会長に国府中学校、川越校長に、副会長には、大磯中学校PTA代表、三栖委員に決定した。

3. 議 題

議題については、会長が議長で、会議の進行を行うこととし、公開での会議とした。

(1) 給食導入に係る方式案及び懇話会での意見について

初めに、事務局から【資料1】中学校給食の実施方法について、さまざまな方式があるため、参考までに5方式について説明を行った。

議長) ただいま、事務局より資料の説明で、内容について質問等をお願いしたい。

委員) 食数によっても違うと思う、共同調理方で作った場合、どのくらいの建築費がかかるのか?

事務局) 費用については、最終的には実施方法別に示していかなければならないと思っているが、今日は、自由な意見を出していただきたいこともあり特に金額の提示は用意していない。二宮町のセンターを例にとると、最大2,500食の調理ができ、敷地面積1,700㎡、延床1,421㎡で、工事費7億、土地1億5千万、約10億かかっている。建設する規模などいろいろあるため、一概にはいえない。

委員) 業者方式とデリバリー方式の1食当たりの値段が分かれば教えてほしい。

事務局) 業者弁当の場合、必要な方が注文するが、学校が間に入って弁当を買うということで、500円ぐらい個人負担が出てくるのではないかと思う。デリバリーについては、栄養士や調理委託をする形なので、委託料については町で持つ形で、愛川町を例にとると、250円程度で給食費と変わらないと考える。

議長) 先ほど説明で、給食を作る側の施設整備であったが、仮に実施するとなった場合は、給食用の昇降機が必要となってくると思う。食缶の待機場所、受け取る側のコスト負担も必要となってくる。どんな方式でも食材を受け渡す場所が必要となってくると思う。また、中学校長として、学校の教育課程に与える影響や運用についてどうか。

委員) 先ほど、お金の話を先にしてしまったが、この懇話会の進め方として、お金抜きに考えるのか、それともそれを含めて考えていった方がよいのか。その辺はどうか。

議長) 先ほどの事務局の話ですと、今日は、いろいろな視点からお金を抜きに考えるということで、いろいろな視点から意見を言っていたきたい。

事務局) そのほか、ソフト面から、中学生、保護者から食育の面からも意見をいただければと思う。

議長) 初回ですので、何でも意見を出してほしい。

委員) 中学生の教育課程の話したが、50分授業で週5日、6時間の日が4日、5時間の日が1日ある。午前の終わりが12時40分で、そこからお弁当であれば、すぐ食事が始められるが、給食の場合、準備が入って、食事をし、片づけをすることになる。仮に10分で準備をしたとして、12時50分から食事が始まり、その時間が適正化どうかもある。多数の生徒は、部活動に入っているの、7時30分に部活が始まるので、1時間前に朝食を済ませている。さらに自主練習を行っている生徒は、もっと早く来るので、さらに早い時間に朝食をとっているのではないかと推測するとこの時間は厳しいと思う。そうなるとカリキュラムを午前の3時間、午後の3時間にするなどの取り組みの検討も必要になってくる。6校時目の終わりが遅くなることや、部活動の時間が短くなり、特に冬場の部活動の時間が短くなってしまふ。はたしてそれが良いのか、悪いのかその辺も判断材料の1つとして出てくるのではないかと思う。

議長) 実際、中学校に導入した場合、そういうこと等も視野に入れた上で、進めていかなければならない。小学校は45分が基本、中学校は50分である。午前中だけで4コマあり、20分は時間数が多い。

委員) 大磯・国府小学校とも、12時20分に4校時目が終わり、準備、食事、片付けを含め40分、13時まで片付けを終了している。中学生では、もう少し早いと思いますが、そのくらいの時間はかかっている。

委員) 現状、中学校の昼休みは12時40分に授業が終わり、食事をして、遊びや委員会活動、休息を取るなどして、午後の授業開始は13時25分からである。

議長) この昼休みの45分間が中学生にとっては、エネルギーの充電をするとともに次の授業への活力を生み出す遊びの時間でもあり、これが学校給食を始めることでどれだけ影響があるか。ちなみに二宮西中の校長と話す機会があつて聞いてみると、準備に慣れて15分掛かるとのことであった。衛生の面から身支度等もしなければならない。

先ほどのコストの中に白衣や帽子なども入ってくる。トラブルがあるか聞いてみたところ、食べたい生徒と、そうでない生徒がいるので差があると言っていた。食育の面からではどうかと思う。

委員) 授業時間の見直しということで、二宮の中学校では授業をどのようにしているのか。またセンターから運んできてもらっているが、ひと月の給食費はどのくらいか。

委員) 以前、二宮の中学校に勤務していたので話しすると、教育課程は、大磯も同じで、文科省で基準は統一している。給食を導入しているの、帰りの会の時間が延びてしまうということがある。また、食数で違うと思うが、二宮は180食。それ以外は半日下校で、授業時数は少なくなってしまう。給食が始まってしまうとそれ以外の日に弁当とするのは難しい。新指導要領になってからはさらに厳しい。夏休みの後半を授業に充てて

いる。夏休みを充てるのがよいのか、部活動の練習や大会もあるので、大磯町にとってそれがプラスになるのかマイナスになるのか考える必要がある。

議長) 今ここで出てきた質問は、新たに事務局で調べてもらうこととしたい。給食費の実費と授業をどのように工夫しているのかなどを調べてほしい。他に検討しなければならないことなど何かあるか。

委員) 施設についてであるが、空き教室があれば、食堂のように開放してワンプレート形式で出せば配膳は、楽になるのではないか。

委員) 少人数学習など取り入れているので、空き教室はないと思う。現状では難しい。

委員) エレベーターの設置等を考えると、そういうことも検討する必要があると考える。

議長) アイデアも含め他にあるか。

委員) 母親からすると大変と聞く。私の学生時代は、食堂があり、そこで弁当を買う子や、弁当を持参する子さまざまいた。基本は弁当である。理想は、給食だと考えるが、給食にしなくても問題はないと思う。食育については、日本は、食べ物に恵まれており、外国の話をする、アメリカの子どものお弁当は紙袋にパンにピーナツバターとジャムを塗ったサンドイッチとりんごを1つ入れて持たせると聞いている。日本と比較すると、食環境は、はるかに良いと思う。食育に関して言うと、それほど重要ではないかと思う。むしろ、学校の授業のやりくりは、大変なことのほうが、大きいと思う。また、予算の問題は、町で考えればいいのであって、もし、給食にできるのであれば、無いからやらないのではなく、やるならお金を出してほしい。他を削ってでもやって欲しいと思う。

議長) 食育を推進する立場からの意見も願います。

委員) 栄養を考えて提供している立場であるが、以前は、平塚の共同給食場にもいたことがあり、自校方式の学校にもいた。いろいろな方式があるが、一番良いのは自校方式と思う。提供の面、食育の面からしても、自分のところで作り、その匂いを子どもたちが嗅ぎ、実際に五感で感じ、給食を通して食を学べるという面では自校方式が良いと思う。それ以外に、アレルギー対応、温・冷のものを提供できる。お金抜きに考えると良いと思う。

委員) 同じ意見である。専門職でやっているのだから、中途半端な考え方は、だめだと思う。やるならしっかりとやって欲しい。お弁当方式もいいのかもしれないが、他の近隣で進んでないのは、やはり意味がないのではないか。意味のないことは止めたほうがよい。やるのであれば力をいれてやっていく。子どもたちには、何を必要として給食が始まったのか、という部分をきちんと説明して給食を始めないといけな。ただ、昼食を提供するというのではなくて、学校給食には目的があることなので、伝統のことや行事のことなど、そういうことも食育の中で学んでいって欲しいので、中途半端な給食は、進めたくはない。

委員) 先ほどの補足だが、娘が小学校で給食をいただいているが、親もメニューを見るがバリエーションが豊富で羨ましく思う。中学校では、だんだん大人になってきて現実社会にも直面してくるころで、少しは、不自由しても良いと思っている。親の観点からいうと部活動など朝早くから弁当を作ってもたせるのは大変なのは良くわかる。父親の立場からいうと母親がイライラするのは困る。

委員) 毎朝、お弁当作りは大変である。一番心配しているのは、暑い時期に朝からお弁当

を持たせることであり、また、中学生ぐらいまでは、もう少し給食で食育を勉強した方がいいと思う。子どもに好き嫌いはないが、弁当は、ついつい好みのものに偏ってしまうので、バランスのよい給食は良いと思う。

委員) 町で食育を進める立場として、給食もお弁当もどちらも良い面があると思う。部活動など体を動かすことが多くなる中学生の栄養を補うのには給食は良いと思う。お弁当については、自分の経験から親が朝早くから作ってくれて美味しかった。中学生当時はわからなかったが、今となって愛情いっぱいだったことを感じる。そういう面で両方よい面があるので比較するのは難しい。

委員) 来年子どもが中学生に上がる。経験してないので何も言えないが、お弁当は、夏場の衛生管理について気になっている。また、お弁当1つで朝から晩まで過ごさせるのは、お腹がすいてしまうのではないかと心配である。給食があると、ある程度カロリーが賄えるので多少良いと思う。

委員) 3人子どもがいて、一番下の子どもが現在中学生であり、毎日お弁当を作っている。子どもたちは、お弁当が大好きなので正直、給食はいらないと言っている。また、夏場でも朝早く持たせているが、衛生状態には配慮している。今年も暑かったが、弁当を食べてお腹の調子が悪くなったことはなかった。暑い時期は入れられるものも限られてくるし、基本的には、良く冷ましてご飯を詰める、保冷剤を入れるなど、みなさんがご家庭で行っている食中毒対策で、十分対応はできると思う。PTA代表としてきているので、弁当対応ができていない家庭は、どうしているかというコンビニ弁当を持参する子どももいるようである。朝食、昼食ともコンビニの家庭があることも聞いているので、難しい問題だと思う。

委員) 町で給食導入の話題が出たのは、だいぶ前だが、その当時は、子育て支援の観点から給食導入を検討する流れだったように思う。現在、家庭が多様化しているので、給食はありがたいと思う。栄養のバランスや汁物も食べられ、温かいものは温かいまま食べることができ、食育の面でも栄養士、調理師の配慮でさまざまな季節のものを出していただいているので、給食は大変良いと思う。そういう反面で、予算抜きには考えられないと思う。多額の経費を考えると迷うところである。この懇話会で自分の考えを精査、吟味し、みなさんと意見を共有していきたい。

委員) 食育の観点から言わせていただくと、中学校でお弁当をそれぞれ食べているが、一つ釜の飯を食べるではないが、連帯感が足りない気がする。給食は、その一環として連帯感が出てよいのではないかと思う。

委員) 給食があっても良いと思っているが、この会に出席する前に、周りの人に方に聞いてみたところ、お弁当が良いという人もいた。その方の意見は、今、愛情をかけなくてどうするのかとのことであった。給食が良いと思うのは、毎日、お弁当を作ってもらっている子どもたちが給食を必要としているのではなくて、そうではない子どもたちのことを耳にする。学校のパン販売で、体の大きな男の子がパンを5、6個買って食べているらしいが、お腹いっぱいにならないようで、そんなことで、お昼を済ませていいのかと心配に思う。また、コンビニでお弁当を買ってくる子は、朝もきちんと食べてこないと考えられる。そういう子どもがどのくらいいるか分からないが、数パーセントの子どもたちのために、やらなければいけない気もする。満たされている子どもは、どちらで

も良いと思う。どちらもメリット、デメリットがあるので、これがベストはないと思うが、お弁当を持ってこられない子どもの家庭を考えると自校方式ではないと意味がなく、デリバリー方式や業者弁当方式だと、母親が大変だから給食にしたという理由になってしまうので、意味を考えたときに、授業時間のことなど色々大変な課題はあり、簡単ではないが、大きく方向性を変えないと今の予算、現状では難しいと思う。しかし、大きな方向性を持ってやっていけたらと思う。

委員) 授業時数のことであるが、平成 22 年度、全国で 80%以上完全給食を実施しているので、カリキュラム変更は、不可能ではないと思う。ただ、今までとは、状況が違ってくるので、議論が必要になってくる。一番心配なのは、栄養価のことで、栄養士さんに伺いたい。中学校では 1 年～3 年まで身長が 140～180 c m、体重 30～80 kg の体格の子どもがいるが、同じ給食で、大丈夫なのか心配になる。中学生の平均的な体格をどの辺りと考えて給食を作っているのか。分かれば教えて欲しい。子どもによって、部活動をやっているが良く食べる子どもと部活動をやっていないがあまり食べない子どもがいるので、同じ食事で、もつのか心配である。個数の決められた献立で、同じ数、配られるとたくさん食べたい子どもがいる。汁物は調整できる。成長期に上手くできるのか不安で、何か工夫している学校や地域はあるのか。

委員) 小学校でも 1～6 年生までいるが、まず、低学年と高学年とではパンの大きさは違う。段々大きくなってきて、魚なども違う。汁物なども量が多くなり、中学生でもそうなると思う。汁物や煮物など量を調整できるもので、調整するしかないと思う。

委員) 小学校でも同じクラスで大きい子小さい子いる。担任の先生は、一旦、配膳が終わった時に子どもたちに配膳されたもので量的に食べられなければ、食べられる量だけにして、戻してなさいというようなことをしている。戻されたものは、おかわりする子どもが食べるということをしている。

委員) 疑問に思うことは、栄養価のことを考えると、そこで配られる給食を均等に食べて、はじめてちょうど良い栄養価だと思うので、戻したら栄養価が下がってしまいますのではないかと。それで、いいのかどうか自分が担任を持っていた時に葛藤があった。

委員) 先生も葛藤があると思うが、個人差もあり、平均値にはなっているが、あくまで平均値なので体格差があったりするので、間違いではない。大きい子と小さい子で同じ栄養価で食べるのは無理がある。

委員) そういう意味では、お弁当は量の調整がきくので良さはある。自分自身が中学生のころは、お弁当箱 1 つにご飯だけが入っていて、もう 1 つのタッパーにおかずが入っていたので、今の給食と比べると、はるかに量が少なくて心配であった。

委員) この間、教育委員会の方が来られて、パンを買っている子どもに調査をしていた。パンを食べている子が、お弁当を持ってきていないのかというと、そうでもなく、持ってきているが部活動の前や、部活動の後に食べているようである。動いている子どもにとって、3 食であると、足りない部分があると思う。

委員) 中学校、小学校、義務教育であるが、小学校の給食は、当たり前であって中学校の給食がどうしてないのかという経緯は、なにかあるのか。

議長) 事務局の方で調べてあるか。

事務局) 法的には、提供しなければならないとなっていると思うが、経過については、わか

らない。

議長) では、事務局の方で、調べておいてほしい。簡単にいうと学校給食法で義務教育の小中学校では給食を行うことは示されている。その形態として昔は、戦後の栄養不良など、それらに対応して全国に学校給の普及をとっていた。今は、栄養不良に伴ってみんなが同じ物を食べて、食べきって栄養を摂取しなさいというものではなくて、楽しい給食ということで、自分のお腹にあわせた自分の好みに合わせた形でのランチルール形式、バイキング形式など小学校ではいろいろとやっている。全国では、大阪、神奈川など未実施の中学校が多い。小学校は、ほぼ全国で達成されている状態であると思う。ただ、法律でやりなさいとなっていて、実施されていないことについては、良くわかりませんので、事務局で調べてほしい。

委員) 法律ができた当時の状況とだいぶ違うと思うが、逆に、現在では、栄養過多で肥満児の方が増えている状況なので、そういった理由で給食が良いといった話にはならないか。当然、国の方でもそういう議論は、なされているのではないかと思う。そこで法律が変わってないのは、給食は、必要だという判断をされているのではないかと推測できる。もし、そうであれば、もともと法律でいっているのであれば、やる方向で考えるのが自然だと思う。

(2) 大磯・国府中学校生徒会からの意見について

事務局より資料の説明を行った。事前に両中学校の生徒会を訪問し、中学校給食について、自由な意見を聴取した。

議長) 質問等あってらお願いしたい。

委員) 違う質問であるが、年度内に懇話会を4回開催すると聞いているが、4回やらなくて決まってしまうてもよいか。そのほうが節約されて良い。いろいろ言ったが、理想は給食だと思う。法律でもそう言われている。反対する意見は、ないと思う。反対されるとしても少数だと思う。授業もなんとかかなるとの話もあった。そうなる問題ないのではないか。

事務局) いろいろと議論をしていただいて、わからないこともあると思う。給食についての資料も出すので、さらに議論を深めていただきたい。

議長) 懇話会であるので、ここで、何か結論を出させられるということはないと、考えていいと思う。ここは、フリーに自由に議論をする場ということである。

委員) では、この懇話会は、何のためにやるのか。ここで給食をやる。と決まった時に、町は重く受け止めてもらえるのか。決定できないのであれば、どういうことになるか。

事務局) 最終的には、ここで、さまざまな意見が出ると思うので、この意見を教育委員会定例会で教育委員に、懇話会ではこういう意見が出ましたと報告する。先ほど説明した小学校の給食施設の老朽化含めた中で、大磯町の給食をどう考えていくかというところで、教育委員会としての方向性を出していくことになる。

委員) 決定はどこが出すのか。

- 事務局) 教育委員会として中学校給食は、こういう方式でやっていくという方向性を決定する。ただ、これに費用が絡んでくるので、町当局と協議することになる。
- 委員) 決めるのは議会か。
- 事務局) 予算化を町でして、最終的に、予算として承認を得るのは議会である。教育委員会としては、行いたいとの意思表示を行って、それに向けて努力をしていくことになる。
- 委員) 町は、予算はないからといって、予算に計上しなければ議会で何もいわれないのか。要は、できないのだったら話し合っても仕方ない。
- 委員) 予算のことについて何う。中学校では、あまり給食が進んでいないが、小学校では、ほぼ 100%給食があるということは、国や県から予算が各市町村に出されているので、小学校はきちんと給食が進んでいるのか。中学校では、そういう部分で予算的に掛かる問題なので、その辺はそうなのか。
- 事務局) 給食は補助がありません。施設等の整備費はある。
- 委員) この話は、町長が実施する決定をすればやるのか。
- 事務局) 繰り返しになるが、この懇話会は、さまざまな意見を聞いていくということであるので、例えばだが、こういう方向を望むというような表現で議論のまとめとしてもいいと思う。
- 委員) 今日は、傍聴に議員の方も見えているので、議員の方にも推してもらいたい。
- 事務局) ここで意見がまとめれば、次の段階で教育委員が5人いるので、合議制で、ここで意見を全て聴いた中で、小学校のあり方や施設の老朽化のこともあるので、給食全体の方向性をここで出す。この会の大きな枠組みは、中学校給食である。例えば、お金の掛かる共同化方式や自校方式になった場合に、予算が掛かるが、全体的なことを聞いた中で自校方式が望ましいということであれば、教育委員会の中で、そういう意見がでていたのであればそういう方向でやるというのもあり得る。次に、出てくるのは、費用の話である。費用の話になると、町部局との折衝であり、要求は、教育委員会がする。実際の費用を調達するのは町部局で、町長の政策的なこともありますし、最終的には町長の判断のところもある。ただ、先ほど予算の話はしないと云ったが、センター方式や自校方式については、場所や増築の話などの設備の話もでてくる。また、増築についても規制があり、親子方式にした場合は、小学校の施設を増築して中学校分を作るには、施設規模を大きくすることで法的規制が掛かるなど、クリアしなければならない問題もある。共同方式にしても工場地域に建設しなければならないなどあるので、土地も探さなければならない。そうすると長期計画として、さまざまな課題をクリアしないと出来ない問題であると思う。基本的には教育委員会が方向性を決定することになる。
- 委員) 今の話では、最終決定は町長で、ここで話をすることは決して無駄とは思っていないが、多くの皆さんは給食をやりたいという意見の方が強いように思う。もし、そういう方向で話しが煮詰まってきたときは、ここは話だけで、町は、予算がないのでやらないという話にはしたくない。町長は、卓話集会に来て、子どもを大事にしたい。教育を大事にしたい。いろんな人がこの町に住んでみたいと思える町にしたいと言っていた。是非、この懇話会に来ていただいて、話を聞いていただいたほうが早いのではないかと思う。
- 事務局) それはないと思う。学校給食の話であるため、所管は教育委員会になる。その他の

関係者を呼べるという規定にはしてあるが、それは、別になる。基本的には教育委員会で決めることで、この議論の中でお願いしたい。

事務局) 今後、先ほどの話しの中にあった法規制関係資料などを準備しているので、こうやっていくと、このような問題があるなど、皆さんにお示した中で、議論していただいて、大磯にあった方向性を出していければと思っている。そのためには、課題等をきちんとお示ししなければならないと考えている。今日は、自由な意見をお願いしてあるので、具体的な数字等は出していない。

議長) 結論を急ぐよりも、いろいろなメリット、デメリットを含めて10年後20年後、30年後、子どもたちが大人になったとき、あの時話し合っていることが、今こうなっているという方向に結びついてくれているといいと思う。簡単に答えを出すことを考えるよりもむしろ、いろいろなことを出して、十分検討した結果、その中で方向性を出せれば、それをまとめていければよいのではないか。まだまだオープンに話をしていきたいと思う。

中学生の生徒会の意見については、ご質問はよろしいか。中学生は、こんなことを考えているということ参考に次回以降のご発言の中に生かしていただければと思っている。

(3) 中学校給食に係るアンケート実施の検討について

【資料3】についてアンケート調査の素案を提示し、説明を行った。時間の都合上、次回の議題に持ち越すこととした。

事務局) 原則としては、いろいろと意見を聞いたほうがいいので、アンケートをやる方向で考えている。次回、具体的な質問項目等アンケート内容をお示しできればと考えている。本日、他の自治体のアンケートを資料としてお渡ししているのでご覧になっていただき、次回、内容等を議論していきたいと思っている。

委員) 一般用というのは、小中学校生、保護者以外の一般町民という意味か。

事務局) そうである。対象についても含めて検討いただければと思う。自治体によっては、例えば、中学2年生と小学校6年生、保護者。また、無作為で一般町民で実施しており、様々である。その辺、次回提示するので、ご意見いただければと思っている。次回は、質問を入れた中で、対象も含めて資料として出したいと考えている。また、ご意見があればご連絡いただいて資料に含めたいと思う。

議長) 対象をどうとるかによって、方向性が全然違ってきってしまうと思う。事務局がどのようにお考えなのか、つまり、将来、中学校給食が実施されたときにメリットを受ける側の小学生、直近の中学生や保護者はわかるが、大磯の一般町民として、大磯町全体を見渡して、学校給食の実施はいかなものか。そういう視点でもアンケートとる必要がありはしないかと私は考える。優先順位を考えていくと大磯町で今、一番必要なのは何かと問うと、防災対策などが多く意見として上がるのではないかと考えている。即、命に関わること、困っている人をどうするかなど、そうやって物事を見る方がいるので

はないかと思う。それなのに提示された一般用には項目が2つしかない。

委員) それを含めて我々が検討していくということであるか。

事務局) そうである。

委員) 懇話会設置要綱の中に必要に応じて構成員以外の者に出席を求めることができるとなっているので、実際に給食を実施している二宮町などの中学校長に現状をお聞きしたいと思ったので可能ならば出席をお願いしたい。また、大阪の箕面市など、実施にこぎつけている自治体の状況などを提示していただくなど考えていただければと思う。

議長) 要望についてよろしく願います。

それでは、他にないようなのでこれで本日の議事については終了したい。

事務局) 次回、第2回の懇話会は、日程調整をして連絡したい。

以上